

ほとけの 混和会だより

平成二十八年一月
東光院
仏の混和会
第117号



檀信徒各位様に於かれましては、健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。平成二十八年元旦

本年度も、皆様のご指導とご協力を仰ぎ、一步一步邁進して参りたいと存じます。さて本年度は「心」をテーマに、己を偽らず、飾らず、真の自己をみつめ「仏心」仏様の御心に少しでも近づけるよう精進して参りたいと存じます。又、皆様の御心と共に歩む道を会わせて会得して参りたいと存じます。 合掌



四猿の教え

平成二十八年は申年、動物では猿があてられております。猿というと、日光東照宮の三猿が有名ですが、この三匹の猿というモチーフ自体は、古代エジプトやアンコールワットにも見られるもので、シルクロードを伝い中国を経由して日本に伝わったそうです。

そのモチーフは中国儒教の論語礼にあらざれば視るなかれ、礼にあらざれば聴くなかれ、礼にあらざれば言くなかれ、礼にあらざればおこなうなかれ、より「見ざる、言わざる、聞かざる」と、その教えが猿にて表現されたようです。

しかし儒教の戒めは四つ本来は三猿では無く四猿なのです。その四匹目の猿は「しざる」と言う事で両手で股間をふさいで居るのです。ようするに「姦淫するな」と言う事だそうですが、制作者の左甚五郎は、古来の形を重んじて三匹を一の所に造り、四匹目は別の処に造られたとのことでした。この四猿の教えは、少し見方を変えて仏教にも取り入れられ、京都の青蓮院にはオス猿四匹とメス猿が四匹、計八匹の猿がお祭りされております。

その教えは、見猿「人の欠点を見ない」、言猿「人の悪口は言わない」、聞猿「人の悪口は聞かない」、そして四匹目の猿が、「思猿」。「道に外れた誤った思いは抱かない、また人の侮辱や怒り憎しみなどを心にとどめない」、と言う事なのです。

仏教では、「物事は、すべて己の心の持ち方から始まる」と説かれています。誤った邪な思いを抱けば苦しみの生涯となり、清らかな思いがあれば、そこが浄土と成ります。この社会においては、誤った思いを抱くだけでは犯罪には成りませんが、仏教に於いては誤った思いを抱くことを強く戒められております。よって四匹目の猿が「しざる」では無く「思わざる」と改められて居るのです。

私達は、それぞれの人生経験によって会得した、個人的な価値観を抱きます。その己の価値観に執着し、とらわれ、こだわり、わだかまりを持ってしまると、その己の思いに、己がしばられて、己を苦しめ、迷いと災いの要因と成って行きます。よって、本年度は何事にもとらわれず、何事にも執着せず、万人を許す事が出来る、広く大きな思いを抱けるよう努めて参りたいと存じます。 合掌 亮観拝

日本の仏様

新年号



今回は新年特別号と題し、今年の干支であるサルと天台宗について紹介いたします。一見、動物の猿と天台宗との接点が無いように思えますが、天台宗ではサルの神様を大切にしています。

●天台宗とサル

天台宗の総本山である比叡山には、天台宗が日本に伝わる以前から山の神、オヤマクイ神という名の地主神が祀られて降りました。ある日、子供がなかなか授からない事を不安に思った夫婦が、比叡山の山に入り小屋を建て山の神にお参りを行った所、無事に男の子を授かったとされています。その男の子こそ、天台宗の開祖、伝教大師最澄様なのです。



山王総本宮 日吉大社
の信仰が比叡山という場所にはあったようです。後に、比叡山に延暦寺という天台宗の寺院を建てると

決まった際、最澄様は比叡山の地主神を祀る神社、日吉大社を山の麓に建て、寺を守る鎮護神としました。この比叡山の地主神の使いとされるのが「神猿」(まさる)と呼ばれるお猿さんなのです。

昔から比叡山には野生の猿が多く生息していたため、何時しか「魔が去る」「何よりも勝る」という語呂合わせから、魔を退散させ、災厄を防い開運招福、家内繁栄などの御利益をもたらす、地主神の靈力を代理する神の使いとされ、今現在においても日吉大社では、猿を大事にされています。また、日吉大社は今でも、比叡山延暦寺を護る神を祀る神社とされておられ、修行の際には必ずお参りを行う事になっております。もしかしたら、天台宗を日本にもたらした伝教大師最澄様がこの世に生まれたのも、神の使いをするサルのおかげかも知れませんね。

比叡山延暦寺にお参りの際には、山の麓にあります日吉大社にも是非足を伸ばしてみてください。可愛いお猿さんがお待ちしていますよ。今年、年男の亮澄拝

年が明けました



明けましておめでとうございませう。寒さもいよいよ厳しくなり、布団から出るのがつらい季節となりましたが、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。私は昨年のお正月がつい先日のような気がして、一年の経過が早くなつたと感じます。

さて、新年早々過ぎた年の話をするのも何ではありますが、二〇一五年は皆様にとつてはどのような年であったでしょうか。大きな変化があり忙しい一年だった方、平穩でのんびりした年だった方、いろいろな方がいらつしやるかと思ひます。新年を迎えた今、心機一転新たな気持ちで何かをスタートするにはとてもよい時期となりました。今年も丙申の年ですが、甲乙丙と表される十干は、殻に閉じこもった種の甲、根が出たもの不安



定な乙、ようやく地上に芽が現れる丙、茎が伸び成長する丁、といったように植物の成長にたとえられることがあります。また、陰陽五行説によりますと今年の性質は火、方角は南で陰陽の陽の年にあたるといわれることから、見方によつては、二〇一六年は長年秘めてきたものが芽を出す活動的な一年になりそうなおもいたします。十二ヶ月後に後悔しないためにも、無理のない範囲で目標をたてて計画的に実行できる年になければ幸いかと思ひます。

年末の大掃除



去る十二月二三日に境内の大掃除を行いました。大勢の参加を頂き身も心も清らかに新年を迎えることが出来ました。感謝申し上げます。 亮敬拝